

訪問国：アメリカ合衆国

研修テーマ：キャリア教育の充実

所属名 千葉市立天戸中学校

氏名 高野 和 久

1 はじめに

本年度の千葉市学校教育の課題「21世紀を拓く」の「楽しい教室・夢広がる学校づくり」に向けた課題の中に「社会的自立を目指し、生き方を考えるキャリア教育・進路指導の充実」が掲げられている。複雑化、多様化する現代社会に対して、力強く生き抜く力を備えた生徒を育成していくために、キャリア教育の果たす役割や重要性は大きい。しかし、子どもたちの発達や成長段階に合わせたカリキュラムを導入するにあたり、教職員間の連携及び、組織的、体系的に支援し合う意識や姿勢が不十分なため、教育活動全体との関係性がまだまだ希薄である現状が見られる。小学校から大学まで、互いに連携しながらキャリア教育を教育活動の柱にしているアメリカ合衆国の実状を視察し、千葉市のキャリア教育に活かしていきたい。

2 アメリカの教育状況

アメリカでは近年、学力の底上げ、教育の質の維持・向上等を目的として連邦政府による教育改革が進められており、「2000年の目標：アメリカ教育法」（1994年）、「落ちこぼれを作らないための初等中等教育法」（2002年）、「高等教育アクションプラン」（2006年）、「アメリカ再生・再投資法」（2009年）等の法令が制定されている。

各州や各教育委員会を中心にキャリア教育に関して法的、組織的な整備が進められており、学校では、各州から資金援助を得て、新しい施設建設や環境整備がなされている。また、各種企業から講師として、あるいは教育現場スタッフの一員として人材派遣が行われ、同一歩調で教育を行うために教師の意思統一をする各種研修の充実などキャリア教育のための人材確保にも力が注がれている。

例として、教科及び学年は、州によって異なるが、英語、数学の2教科を中心に、州内統一の学力テストが実施されている。このテストの結果は、学校評価の指標の一部として活用される他、高等学校の修了要件となっている州もある。そして自己分析や進学・進路希望の推移なども含めて個人データ化・共有ファイル化され、継続的なキャリア教育の指標として役立てられている。

3 学校訪問をして

今回の研修ではワシントン州のシアトルと、カリフォルニア州のロサンゼルス の2都市を訪問した。ここでは特に参考となったシアトルの教育委員会とその管轄下にある中学校について触れたい。

(1) タホマ学区教育委員会

メイプルバレー市に位置し、ワシントン州から「カリキュラムの開発が革新的な教育委員会である」ということが認められた委員会であり、幼稚園から高等学校まで多種多様な取組を行っている。

キャリア教育に関する特色ある取組としては「フューチャー・レディ・スキルズ (Future Ready Skills) 」があげられる。これは教員、保護者、企業経営者などの地域の様々な立場の人々が約60名集まって、子どもが高等学校を卒業したときに、学業とともに身に付けさせたい能力を8つにまとめたものである。小中高등학교を通じた教育理念として、子供はもちろん、広く地域の大人にも認識されるほど浸透している。8つの能力を持つ人とは、



【8つの能力シート】

- ①状況に応じた総合的な考え方ができる人
- ②自信を持って質の高い取組ができる人
- ③自ら学ぶ能力を持つ人
- ④責任ある決断ができる人
- ⑤適切なコミュニケーションがとれる人
- ⑥チームで行動できる人
- ⑦地域のために考えて貢献できる人
- ⑧人に信頼され頼りになり、人と支え合える人

これらの教育理念はあらゆる授業づくりに生かされている。さらに、子どもたちは8つの能力が身に付いたかを保護者とともに自己評価したり、地域の大人たちからも同様の視点から励ましを受けたりしている。

(2) ダー・リバー・ミドル・スクール

ワシントン州シアトルの南東40キロほど、メイプルバレー市にあるミドルスクールである。6年生と7年生が在学し、ワシントン州タホマ教育学区に属している。生徒の自尊心を高め、

学校への愛着を強めるような、地域から信頼される安全な学校づくりを学校目標としている。

キャリア教育を効果的に実施するために、学校と保護者や地域の連携が、生徒の発達と学業に良い影響を与えると考えており、特に参観日を設けず保護者はいつでも学校を訪れることが出来るようになってきている。

また、学業に困難さを考える生徒が将来への不安を抱えることを原因に、問題行動を起こすことを防ぐために、様々な教育活動のネットワークを通じて補習の時間や機会が与えられている。さらに学業以外にさまざまな困難を抱える生徒には外部の専門家とも連携しながら問題の解決を図っている。

キャリア教育を技能教科の中に位置付けるために、コア・クラス（Core Class）と呼ばれる数学、言語といった必修科目（44科目）の他に、音楽や美術、コンピュータといった選択科目（Electives）が17科目用意されている。授業は基本的には3人ないし4人からなるグループ学習の形態で進められ、定期的に企業や会社から派遣された専門のスタッフが、事業所で実際に行われている作業の一部を子供たちに紹介し、体験させ、話し合わせることで意識付けを図っている。

加えて、タホマ学区教育委員会が進めるフューチャー・レディ・スキルズの中学校段階の教育を進めていくことに力点を置き取り組んでいる。インターンシップや職場体験は、高等学校段階で行うこととし、自立に必要な能力の育成を主に目指していた。8つの項目にそってより細かく具体的な取組が設定されており、例えば①の「総合的な考え方」の場合（A建設的な思考、B問題解決能力、C創造性）の3項目に分け各項目の実現に向けたカリキュラムが設定され、各授業にこの趣旨が生かせる内容を取り込んでいく。また、毎月クラス内で趣旨を活かす実習も行っている。また、四半期に1回講師が8つの項目に沿った行動ができていく生徒を評価し表彰して、自立に向けた考えを育てている。

フューチャー・レディ・スキルズについては制定時に教員研修を実施、教職員の意識の統一をはかり学校全体で取り組んでいることも、長期間キャリア教育が実施され続けている大きな要因の一つである。



【ダー・リバーミドルスクールの授業風景】

4 研修成果の活用

千葉市の教育課題の中にあるキャリア教育の目標「児童生徒一人一人のキャリア発達を促す教育活動の充実」を推進するために、各校各組織で独自に行ってきた様々な活動を集約し、関連づけ、新たに再構築し、教育プログラムとして活用できるような仕組みを作り上げていきたい。

千葉市の各小中学校における教育目標の中に位置付けられている「目指す生徒像」はタホマ教育学区教育委員会が身につけさせたい8つの能力と趣旨は一致している。各学校の教育目標を具現化するためにこそ、キャリア教育が組織化された教師集団や環境、そして数年に亘って継続されるように体系化された企画内容で粘り強く進められるべきである。今回の研修の成果を活用するために次の7つの提案をしたい。

①キャリア教育推進委員会の発足

*研究推進委員会を発展的に改称。

②各学校において継続実施しているボランティア教育や環境教育をキャリア教育推進の一環として明確に位置付ける。

③総合的な学習の時間、特別活動の時間はもちろん、道徳の時間も含め、キャリア教育のための具体的な授業計画の立案・実施を推進する。

④各教科の市教研における授業内容に、キャリア教育を盛り込み、授業実践を研究報告し合う等、学校職員のキャリア教育推進への意欲向上を図る。

⑤市の科学館、美術館、花の美術館等で受け入れている「職場見学・体験」の受入期間や規模、施設や事業所を一層拡大し、短期間数校の受け入れを年間、原則全小中学校を輪制で受け入れるようにしていく。

⑥小中学校へ出前授業ができる人材バンクを設立し、製造業の専門家やサービス業のリタイア者等を学校に招き、ボランティアで特別授業実施、技術を身に付けたり職業選択の夢を広げる一助とする。

⑦小学校、中学校、高等学校まで一貫したキャリア教育プログラムを作成。将来の夢から性格診断、自己能力開発、成績、進路希望等をデータ化し、本人がいつでも閲覧し利用することを可能とする。職業選択や、就職までの道筋等検索できるリンクも貼り付ける。自己理解を深めることが、将来選択への灯台となることを期待する。